

平泉町学校施設長寿命化計画

令和2年3月

平泉町教育委員会

平泉町学校施設長寿命化計画 目次

1. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	1
(1) 背景	1
(2) 目的	1
(3) 計画期間	1
(4) 計画の位置づけ	2
(5) 対象施設	2
2. 学校施設の目指すべき姿	3
3. 学校施設の運営状況・活用状況等の実態把握	5
(1) 対象施設	5
(2) 児童生徒数の変化と今後の推計	6
(3) 学校施設の配置状況	8
(4) 施設関連経費の推移	9
(5) 学校施設の保有量	10
(6) 今後の維持・更新コスト（従来型）	11
4. 学校施設の老朽化の実態把握	13
(1) 劣化状況評価	13
(2) 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）	16
5. 学校施設整備の基本的な方針	18
(1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針	18
(2) 学校施設の規模・配置計画等の方針	19
(3) 長寿命化の方針	20
(4) 目標使用年数、改修周期の設定	20
6. 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	21
(1) 施設整備の水準等	21
(2) 維持管理における点検・評価の方針	22
7. 長寿命化の実施計画	23
(1) 実施計画の考え方	23
(2) 改築や修繕の優先順位	24
(3) 長寿命化の実施計画とコストの見通し	25
(4) 長寿命化の効果	25
(5) 維持・更新の課題と今後の方針	25
8. 長寿命化計画の継続的運用方針	26
(1) 情報基盤の整備と活用	26
(2) 推進体制等の整備	26
(3) フォローアップ	26

1. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

(1) 背景

我が国の公立学校施設は、第2次ベビーブーム世代の増加に伴い、昭和40年代後半から50年代にかけて多く建設されています。それらの施設が建築から40～50年を迎え、今後の維持・管理コストが多額になるとともに、その発生時期が集中すると予測されるため、計画的かつ効果的な改修と、そのコストの平準を図る必要があります。

本町の学校施設は、未来を担う児童・生徒の基礎学力を身につける学びの場であり、日常生活の多くの時間を過ごす生活の場でもあります。また、地域住民にとっては、地域活動の場であり、非常時や災害時には避難所としての役割を果たす重要な施設でもあります。そのためにも、安全・安心に、学校施設を利用できるように維持する必要があります。

(2) 目的

本町では、公共施設やインフラ全体における維持管理の基本的な方針として、平泉町公共施設等総合管理計画（平成29年3月、以下「総合管理計画」という。）を策定し、限られた財源の中で、施設を安全・安心に利用し、住民サービスの維持・向上が図れるよう取り組みを進めているところです。

本計画は、総合管理計画を踏まえた個別施設計画として、学校施設を対象に、現状の把握・分析に基づき、今後の学校の在り方と維持保全の方向性を検討するとともに、施設の劣化状況の評価を行い、整備改修の優先順位を勘案した学校施設全体の中長期的な施設整備の方針を定めることを目的とします。

(3) 計画期間

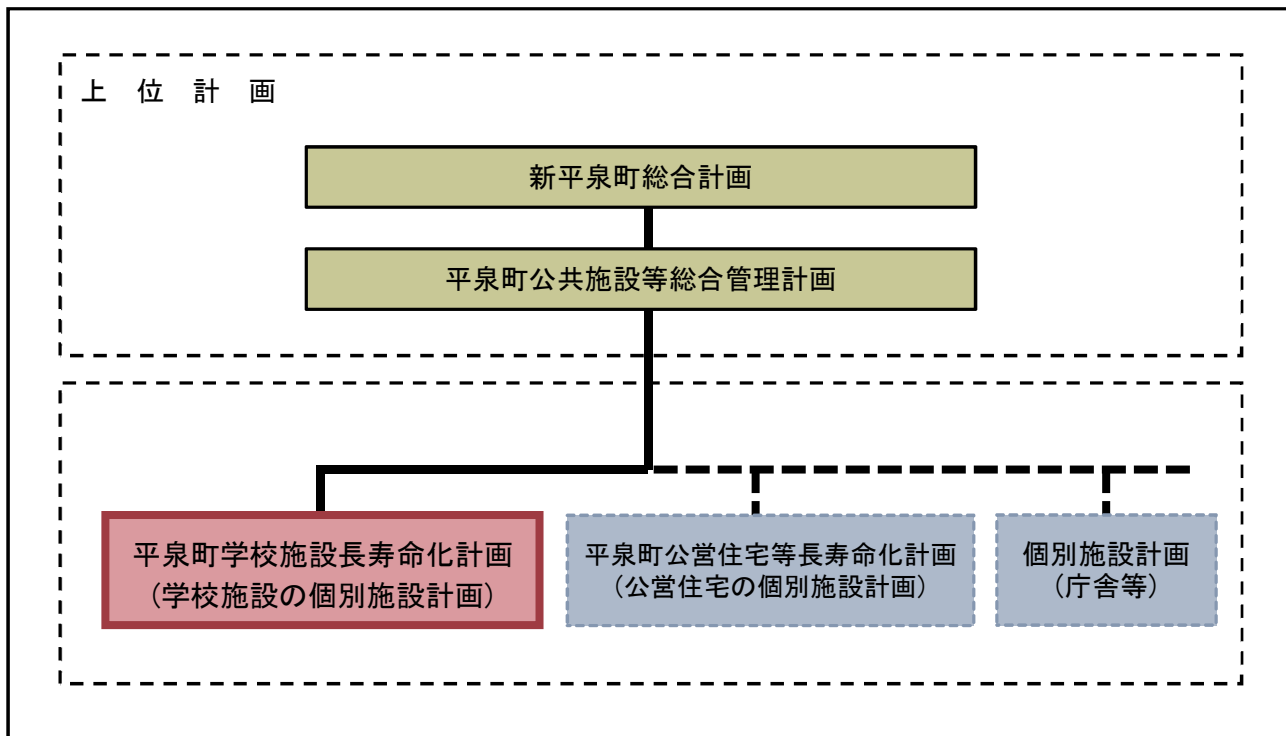
本計画の期間は、下記の10年間とします。

令和2（2020）年度～令和11（2029）年度

なお、本計画における維持・更新コストの試算対象期間は40年とします。また、施設の老朽化状況等の実態を継続的に把握し、PDCAサイクルによる実行システムを構築したうえで、計画を5年ごとに見直すものとします。

(4) 計画の位置づけ

本計画の位置づけを以下に示します。



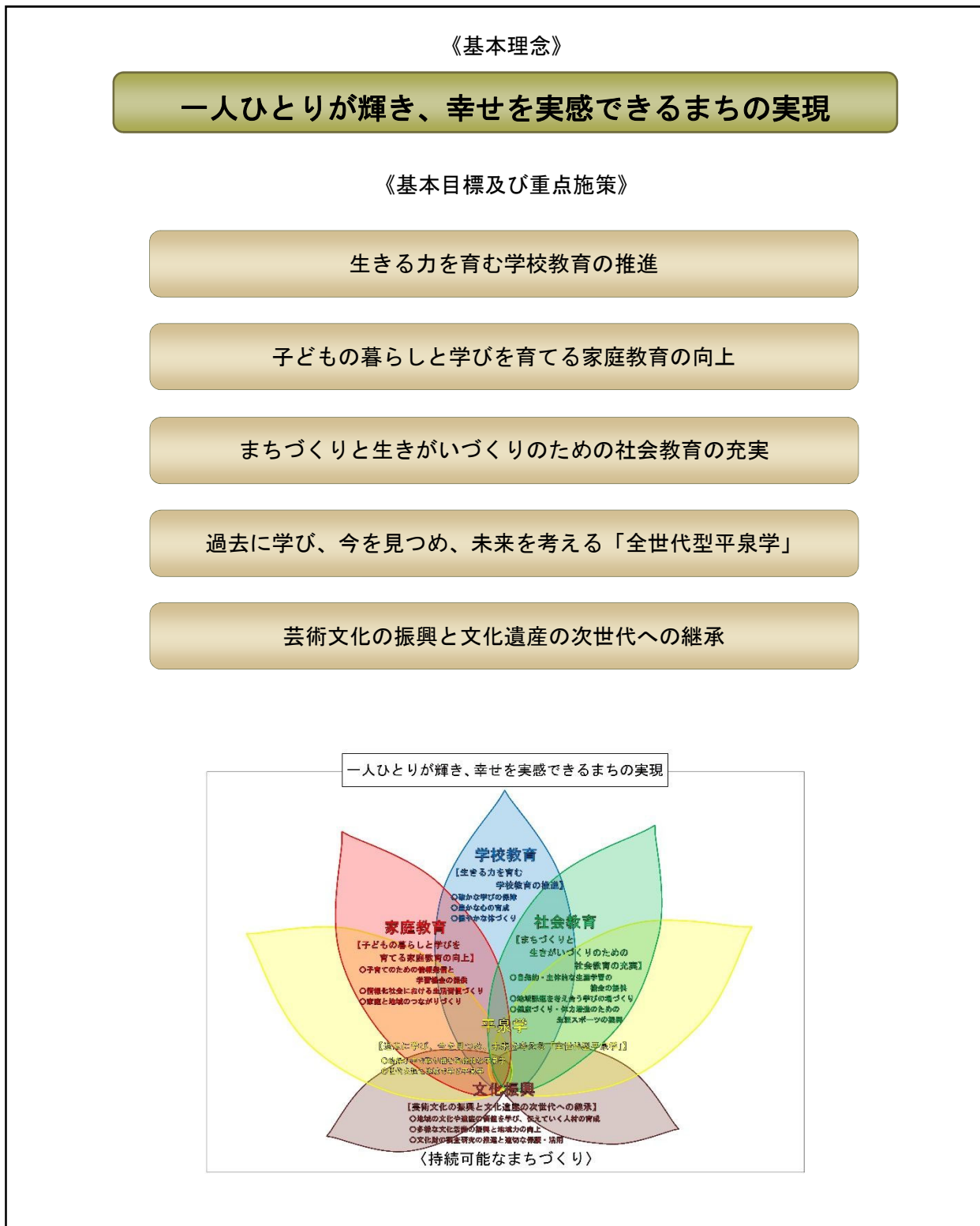
本計画は、公共施設等総合管理計画における学校分野の個別施設計画として、今後10年間の学校施設の改築・修繕計画を策定するとともに、今後に向けた課題を整理します。

(5) 対象施設

本計画の対象施設は、町立小学校2校と町立中学校1校の合計3校とします。

2. 学校施設の目指すべき姿

本町の教育大綱では、「教育の目指すべき姿」として以下を掲げています。



以上を踏まえつつ、学校施設整備基本構想の在り方について（学校施設の在り方に関する調査研究会議 平成 25 年 3 月）を参考に、本町の学校施設の目指すべき姿を以下のように整理します。

1. 学習活動への適応性を確保する施設環境

学校施設は、基礎的な学力の定着を図る子供たちの学びの場であることから、効果的・効率的に、充実した教育ができる機能的な施設環境を整えます。

2. 安全性・快適性を備えた施設環境

学校施設は、児童・生徒にとって学びの場であるとともに生活の場でもあることから、災害対策や防犯・事故対策がなされた、快適な学習環境が整った施設環境を備えます。

3. 地域活動の拠点施設としての施設環境

学校施設は地域住民にとって地域活動の場であり、非常災害時には避難所としても重要な役割を果たす場であることから、安全・安心な施設環境を整えます

3. 学校施設の運営状況・活用状況等の実態把握

(1) 対象施設

本計画の対象とする学校施設は、3施設11棟（延床面積14,210㎡）とします。

平成31年4月現在の児童生徒数は、小学校357人、中学校193人、小中学校合わせて550人です。学級数は、小学校19学級、中学校9学級で、小中学校合わせて28学級です。

【施設一覧】

学校名	建物名	延床面積 (㎡)	建築年度	築年数	構造※	児童生徒数 (人)		学級数		大規模改造 実施
						通常 学級	特別 支援	通常 学級	特別 支援	
平泉小学校	屋内運動場	1,257	2001 (H13)	18	S	264	9	10	2	無
	校舎	2,606	2002 (H14)	17	RC					無
	校舎	1,091	2003 (H15)	16	RC					無
長島小学校	校舎	2,675	1993 (H5)	26	RC	83	1	6	1	無
	屋内運動場	825	1994 (H6)	25	S					無
	連携施設	200	1994 (H6)	25	S					無
小学校 計		8,654				347	10	16	3	
平泉中学校	屋内運動場	1,318	1977 (S52)	42	S	183	10	6	3	無
	柔剣道場	460	1979 (S54)	40	S					無
	校舎	1,854	2010 (H22)	9	RC					無
	校舎	206	2010 (H22)	9	RC					無
	校舎	1,718	2011 (H23)	8	RC					無
中学校 計		5,556				183	10	6	3	
小・中学校 合計		14,210				530	20	22	6	

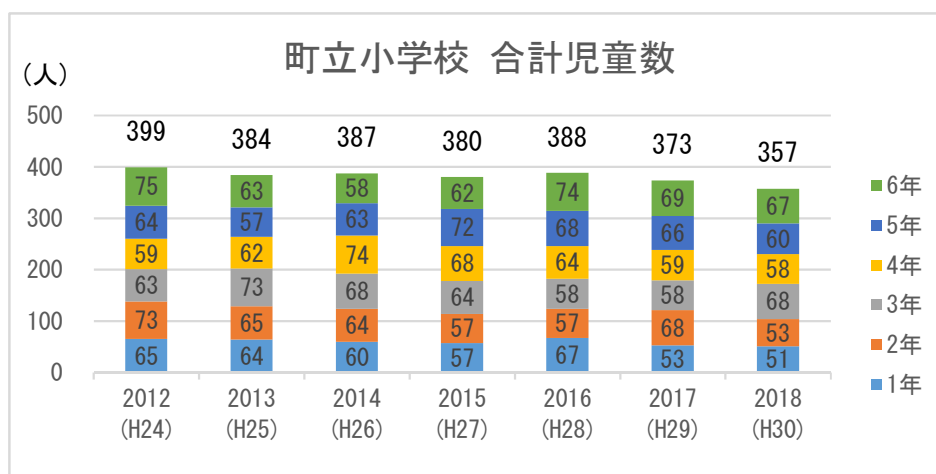
※ 構造のRCは鉄筋コンクリート造、Sは鉄骨造を指します。

(2) 児童生徒数の変化と今後の推計

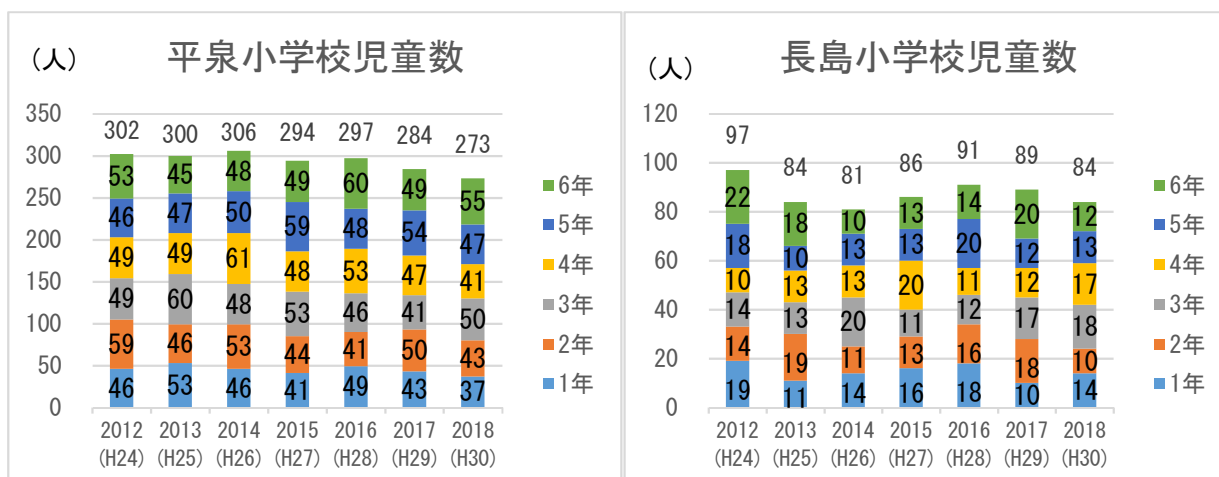
ア. 小学校の児童数

本町における 2018（平成 30）年の小学校児童数は、357 人です。過去 7 年間でみると、緩やかに減少しています。

【児童数の変化】



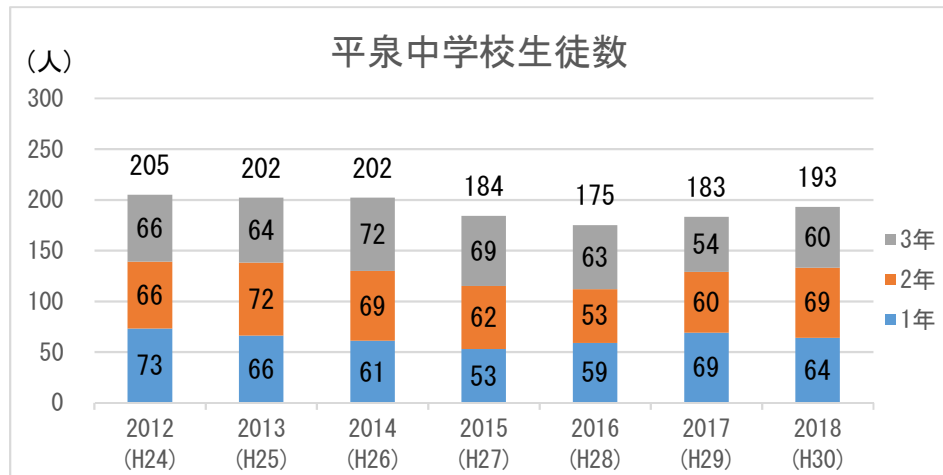
【各校の内訳】



イ. 中学校の生徒数

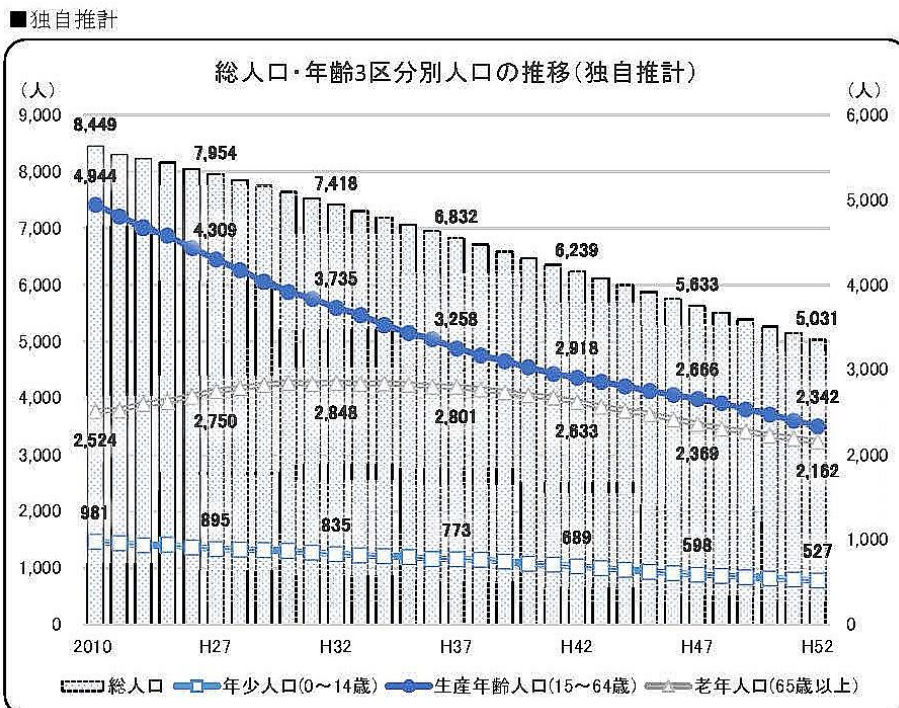
本町における 2018（平成 30）年の中学校生徒数は 193 人です。過去 7 年間でみると、2016（平成 28）年で減少したものの、2017（平成 29）年からやや増加しています。

【生徒数の変化】



ウ. 人口ビジョンによる児童生徒数の見通し

平泉町人口ビジョンによると、将来人口の推移は下記のとおりです。年少人口（0～14 歳）はこれからも減少し続けると推計されていることから、児童生徒数も減少が続くものと考えます。

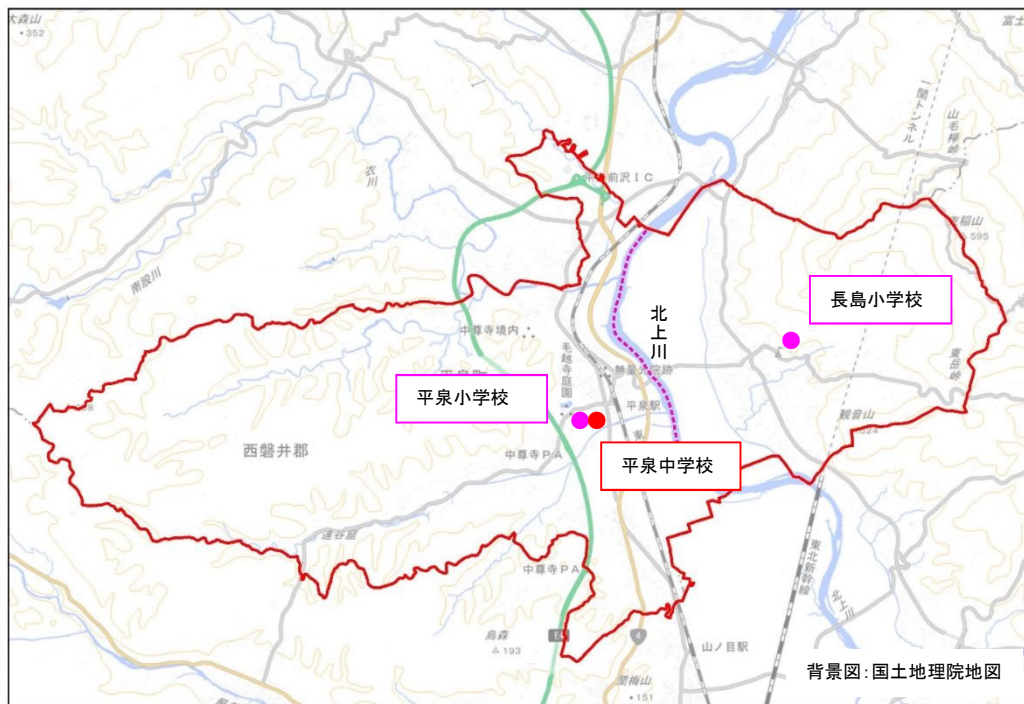


出典：平泉町人口ビジョン(平成 28 年 3 月 平泉町)

(3) 学校施設の配置状況

本町の小学校2校は、おおよそ北上川の東西で学区を分けています。西側の町の中心部に平泉小学校、東側に長島小学校を配置しています。

中学校は中心部に平泉中学校を配置しています。



【図 小中学校の配置状況】



【図 町中心部の拡大図】

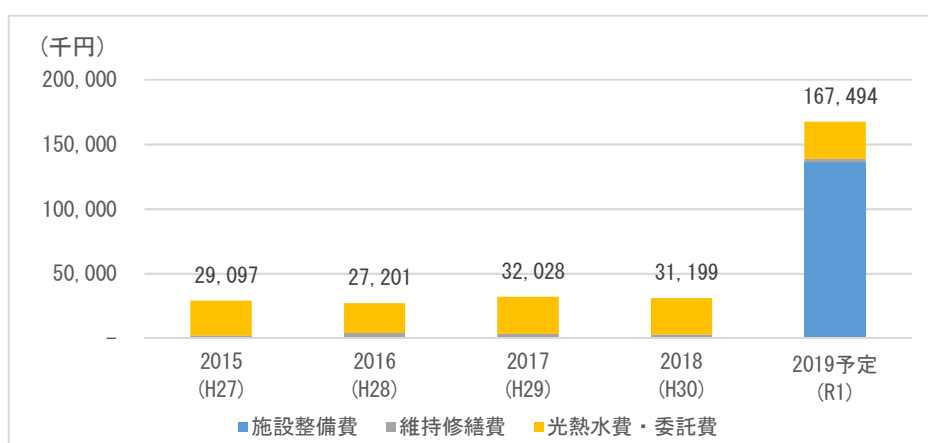
(4) 施設関連経費の推移

本町の学校施設にかかるコスト状況をみると、2015（平成 27）年度からの施設関連経費は以下のとおりです。2019（令和元）年は空調整備を実施して施設整備費が例年に比べ突出するため、この空調整備費を除外した、過去 5 年間の年平均額は約 30 百万円です。

●小中学校合計

単位：千円

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019(R1) 予定	5 ヲ年平均
施設整備費	-	-	-	-	141,274	(除外)
その他施設整備費	-	-	-	-	-	-
維持修繕費	2,295	4,225	3,494	3,039	1,995	3,011
光熱水費・委託費	26,802	22,976	28,534	28,160	23,417	25,978
合計	29,097	27,201	32,028	31,199	166,686	28,989



●小学校

単位：千円

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019(R1) 予定	5 ヲ年平均
施設整備費	-	-	-	-	99,100	(除外)
その他施設整備費	-	-	-	-	-	-
維持修繕費	2,141	3,733	3,298	2,674	1,995	2,768
光熱水費・委託費	17,552	13,102	13,904	13,782	12,874	14,243
合計	19,693	16,835	17,202	16,456	113,969	17,011

●中学校

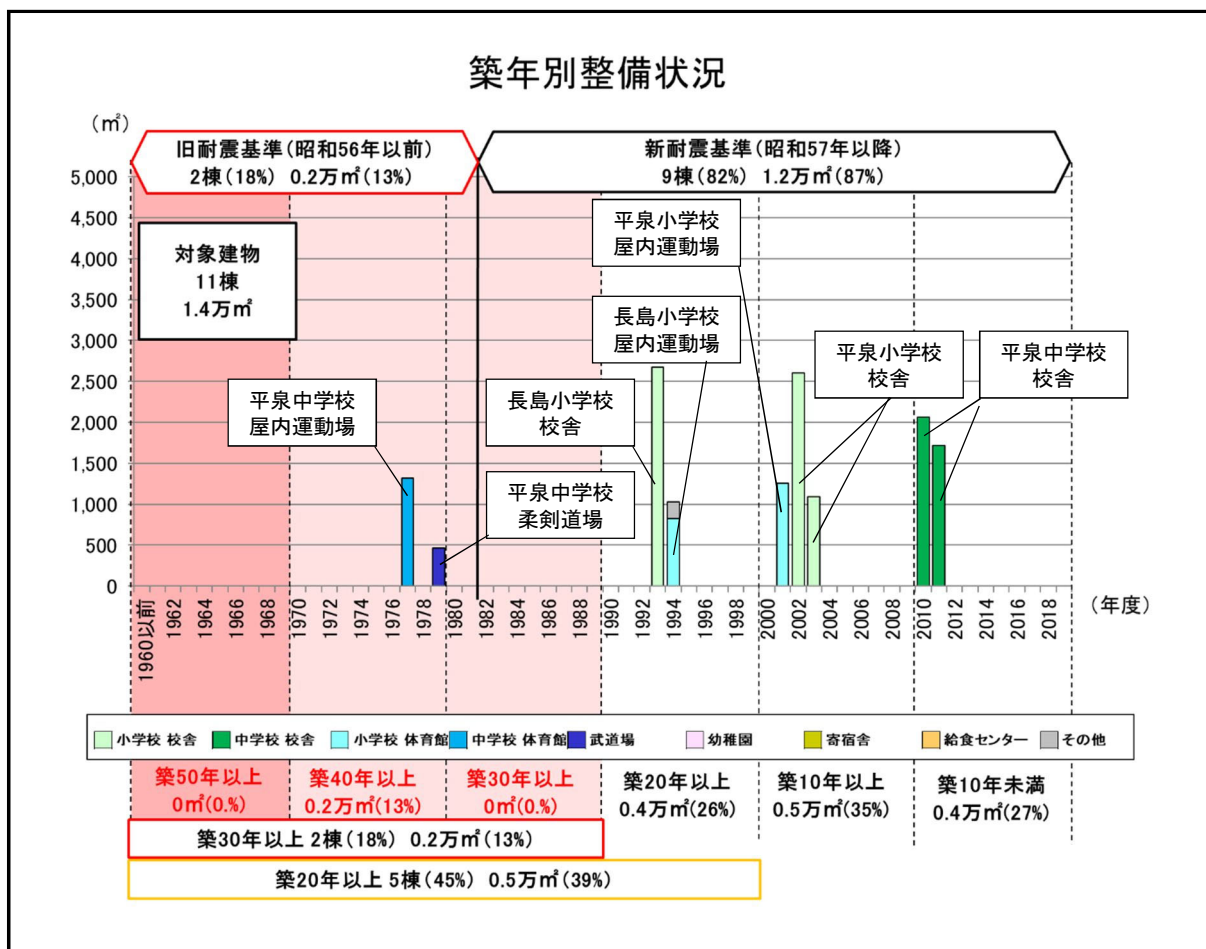
単位：千円

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019(R1) 予定	5 ヲ年平均
施設整備費	-	-	-	-	42,174	(除外)
その他施設整備費	-	-	-	-	-	-
維持修繕費	154	492	196	365	0	241
光熱水費・委託費	9,250	9,874	14,630	14,378	10,543	11,735
合計	9,404	10,367	14,826	14,743	52,717	11,976

(5) 学校施設の保有量

本町の学校施設の築年別整備状況は次のとおりです。そのうち、30年以上経過している学校施設は平泉中学校の体育施設2棟で、延床面積は1,778㎡（全施設の13%）です。

旧耐震の施設は平泉中学校の屋内運動場と柔剣道場の2施設ありますが、両方とも耐震化が完了しています。



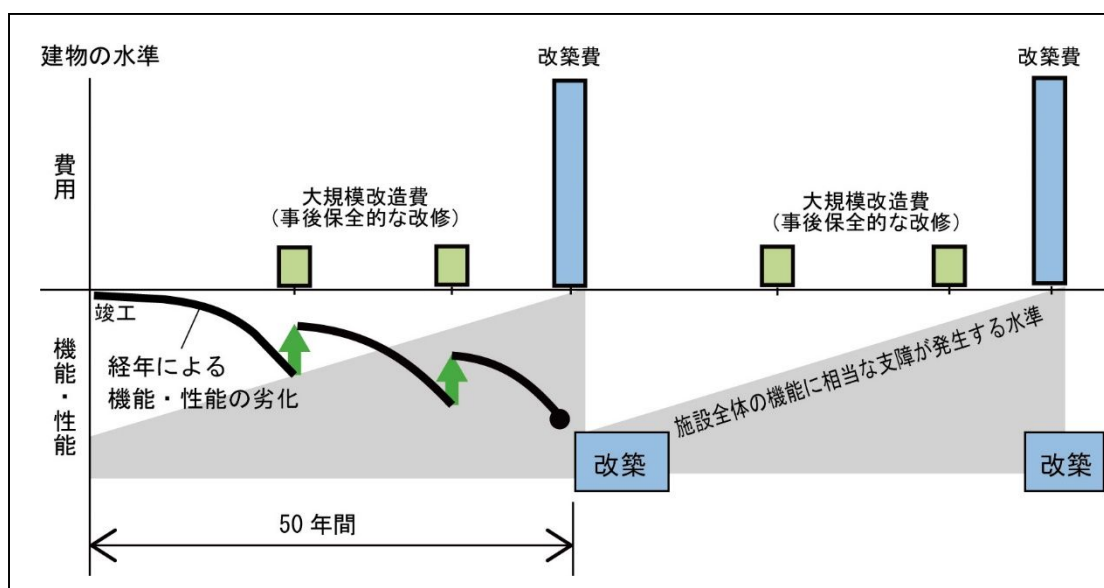
【文部科学省】長寿命化計画策定に係る解説書付属 Excel ソフトによる

(6) 今後の維持・更新コスト（従来型）

ア. 今後の維持・更新コスト（従来型）算出の考え方

今後の維持・更新コスト（従来型）算出の考え方は、文部科学省の学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書に準拠し、次のとおりとします。

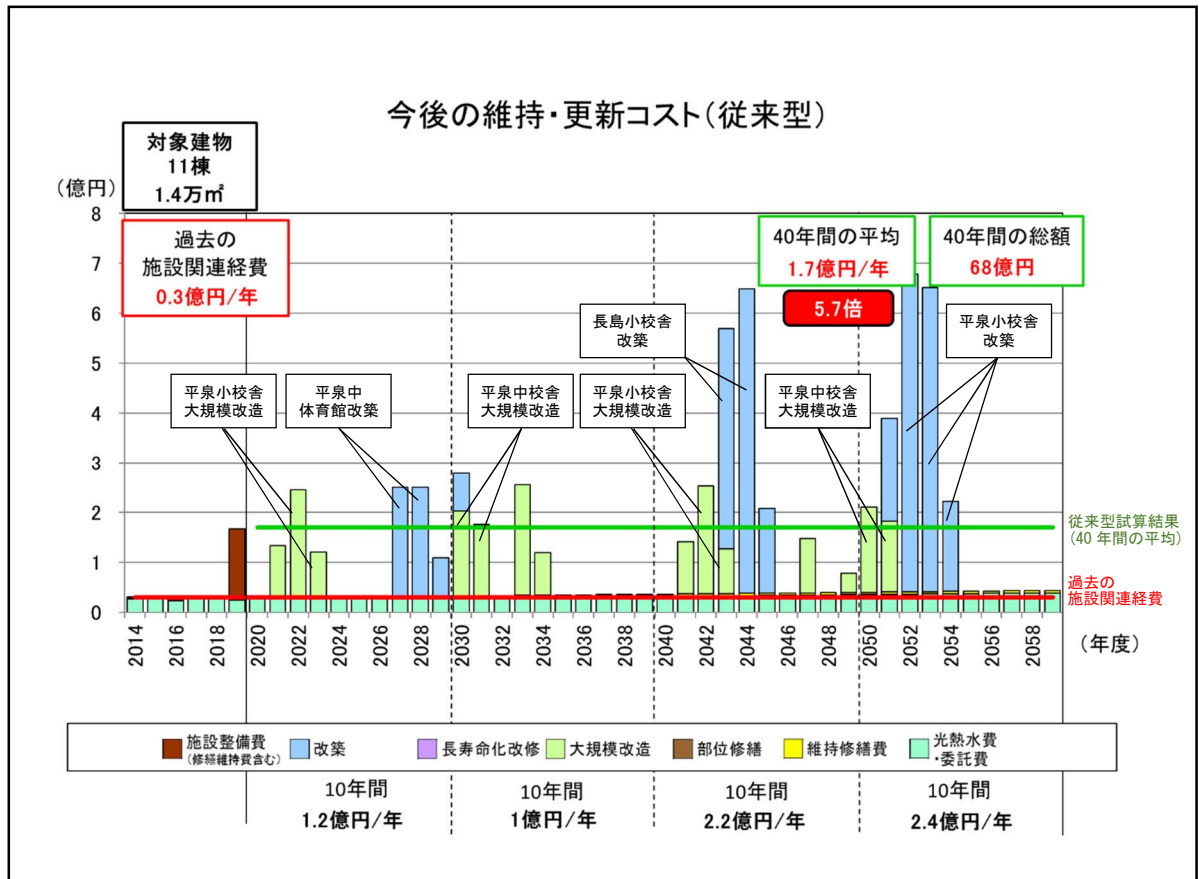
- ・ 改築周期：改築周期（50年）に、現状の延床面積で改築を実施し、2年に工事費を均等配分するものとします。
- ・ 改築単価：330,000円/㎡とします。
- ・ 大規模改造周期：改造周期（20年）とし20年目と40年目に、現状の延床面積で単年度に工事を実施するものとします。20年以上経過した建物は40年目のみ計上するものとします。
- ・ 大規模改造単価：82,500円/㎡（改築単価の25%）とします。
- ・ 大規模改造単価（屋内運動場他）：72,600円/㎡（改築単価の22%）とします。



図：改築までのイメージ（従来型）

イ. 今後の維持・更新コスト（従来型）

前述の考え方に基づき、今後 40 年間における従来型での維持・更新コストを算出すると、68 億円（1 年あたり 1.7 億円）のコストが必要になると試算されます。



【文部科学省】長寿命化計画策定に係る解説書付属 Excel ソフトによる計算結果

コスト試算条件(従来型)

基準年度 2019 年
 試算期間: 基準年の翌年度から40年間

改築
 更新周期 50 年 工事期間 2 年
 改築単価 330,000 円/㎡ 実施年数より古い建物の改修を 10 年以内に実施

大規模改造
 実施年数 20 年周期 工事期間 1 年

4. 学校施設の老朽化の実態把握

(1) 劣化状況評価

劣化状況評価は、「構造躯体の健全性」と「構造躯体以外の劣化状況」に分けて評価します。

ア. 構造躯体の健全性

構造躯体の健全性は建物の建築年度から耐震基準^{※1}を把握し、それを基に躯体の長寿命化について判定します。

新耐震基準は「長寿命」と判定します。

旧耐震基準の建物においては、耐震工事が完了しているため、「長寿命」と判定します。

【躯体の健全性 調査結果】

■ : 築50年以上 □ : 築30年以上

建物基本情報								構造躯体の健全性					
施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度	築年数	耐震安全性			長寿命化判定		
								基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/mm ²)	試算上の区分
平泉小学校	屋内運動場	008	S	2	1,257	2001 (H13)	18	新	-	-	-	-	長寿命
平泉小学校	校舎	010-1	RC	2	2,606	2002 (H14)	17	新	-	-	-	-	長寿命
平泉小学校	校舎	010-2	RC	2	1,091	2003 (H15)	16	新	-	-	-	-	長寿命
長島小学校	校舎	012	RC	2	2,675	1993 (H5)	26	新	-	-	-	-	長寿命
長島小学校	屋内運動場	013-1	S	1	825	1994 (H6)	25	新	-	-	-	-	長寿命
長島小学校	連携施設	013-2	S	1	200	1994 (H6)	25	新	-	-	-	-	長寿命
平泉中学校	屋内運動場	004	S	2	1,318	1977 (S52)	42	旧	済	済	H24	-	長寿命
平泉中学校	柔剣道場	006	S	1	460	1979 (S54)	40	旧	済	済	H24	-	長寿命
平泉中学校	校舎	008-1	RC	2	1,854	2010 (H22)	9	新	-	-	-	-	長寿命
平泉中学校	校舎	008-2	RC	2	206	2010 (H22)	9	新	-	-	-	-	長寿命
平泉中学校	校舎	008-3	RC	2	1,718	2011 (H23)	8	新	-	-	-	-	長寿命

※1 耐震基準 昭和56年6月に建築基準法が改正されています。ここでは耐震基準を昭和56年度以前の建物を「旧耐震」、昭和57年度以降の建物を「新耐震」に分類します。

イ. 構造躯体以外の劣化状況評価について

本計画の対象建築物について、建築基準法 12 条点検結果等の既存の資料を参考に評価を行っています。また、建築基準法 12 条の点検を行っていない建築物については、現地において劣化状況調査を実施し、評価を行っています。

実施フローを以下に示します。

I 既存資料の調査

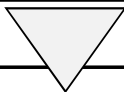
- ・ 学校施設台帳を基に対象施設の用途、規模（階数・面積）、構造や建築年度の調査
- ・ 調査用図面（平面図、立面図）の収集
- ・ 学校建物・設備の保守点検状況の確認
- ・ 学校施設台帳を基に過去の修繕履歴の確認

II 事前の資料整理

- ・ 収集した資料を基に、計画及び調査に必要となるデータの整理

III 現地調査の事前準備

- ・ 平面図・立面図、点検機材の準備
- ・ 各学校の施設管理者との工程の調整



IV 劣化状況調査

- ・ 建築技術者による現地調査

V 劣化状況調査の評価基準（文部科学省長寿命化計画策定に係る解説書に準拠した A～D の 4 段階評価）

- ・ 屋根・屋上、外壁、内部仕上げ（現地にて目視による確認を行い評価）
- ・ 電気設備、機械設備（部位の全面的な改修年から経過年数を基本に評価）

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の見)
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

VI 解説書に準拠した建物健全度の算出

- ・ 各建物の部位について劣化状況を 4 段階で評価した結果、100 点満点で数値化

$$\text{総和(部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分)} \div 60 = \text{健全度}$$

ウ. 調査結果

対象施設ごとの構造躯体以外の劣化状況は、以下のとおりです。築40年を超える平泉中学校屋内運動場ですが、屋根の補修工事を実施済みのためA判定としました。また、平泉中学校の屋内運動場・柔剣道場の外壁については、大きな劣化がみられないためB判定としました。

- A 概ね良好
- B 局所、部分的に劣化が見られ、安全上、機能上、問題なし
- C 随所、広範囲に劣化が見られ、安全上、機能上、低下の兆しがみられる
- D 劣化の程度が大きく、安全上、機能上に問題があり、早急に対応する必要がある

建物基本情報								躯体以外の劣化状況評価					
施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)
平泉小学校	屋内運動場	008	S	2	1,257	2001(H13)	18	B	B	B	B	B	75
平泉小学校	校舎	010-1	RC	2	2,606	2002(H14)	17	B	B	B	B	B	75
平泉小学校	校舎	010-2	RC	2	1,091	2003(H15)	16	B	B	B	B	B	75
長島小学校	校舎	012	RC	2	2,675	1993(H5)	26	B	B	B	B	B	75
長島小学校	屋内運動場	013-1	S	1	825	1994(H6)	25	B	B	B	B	B	75
長島小学校	連携施設	013-2	S	1	200	1994(H6)	25	B	B	B	B	B	75
平泉中学校	屋内運動場	004	S	2	1,318	1977(S52)	42	A	B	C	C	C	55
平泉中学校	柔剣道場	006	S	1	460	1979(S54)	40	C	B	C	C	C	50
平泉中学校	校舎	008-1	RC	2	1,854	2010(H22)	9	A	A	A	A	A	100
平泉中学校	校舎	008-2	RC	2	206	2010(H22)	9	A	A	A	A	A	100
平泉中学校	校舎	008-3	RC	2	1,718	2011(H23)	8	A	A	A	A	A	100

(2) 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

ア. 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）算出の考え方

今後の維持・更新コスト（長寿命化型）算出の考え方は、文部科学省の学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書に準拠し次のとおりとします。

建物の目標使用年数：80年とします。

長寿命化改修周期：改修周期（40年）に、現状の延床面積で改修を実施し、2年に工事費を均等配分するものとします。

長寿命化改修単価：198,000円/㎡（改築単価の60%）とします。

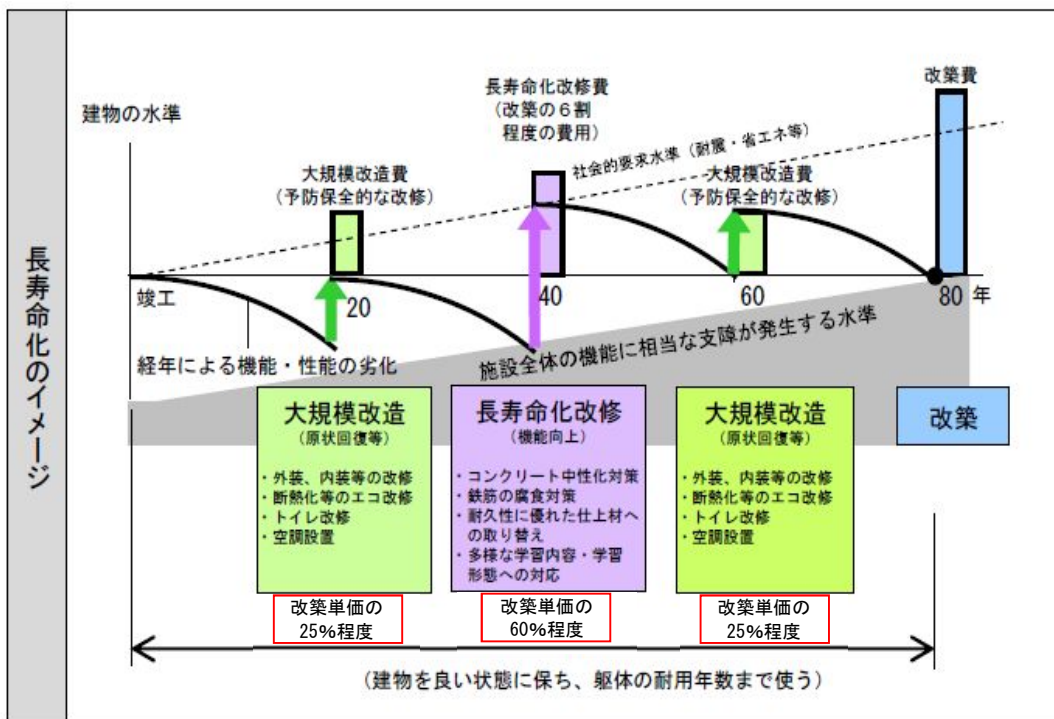
大規模改造周期：改造周期（20年）とし20年目と60年目に、現状の延床面積で単年度に工事を実施するものとします。20年以上経過した建物は60年目のみ計上するものとします。

大規模改造単価（校舎）：82,500円/㎡（改築単価の25%）とします。

大規模改造単価（屋内運動場他）：72,600円/㎡（改築単価の22%）とします。

部位修繕 劣化状況評価「C」：今後10年以内に部位修繕を実施します。

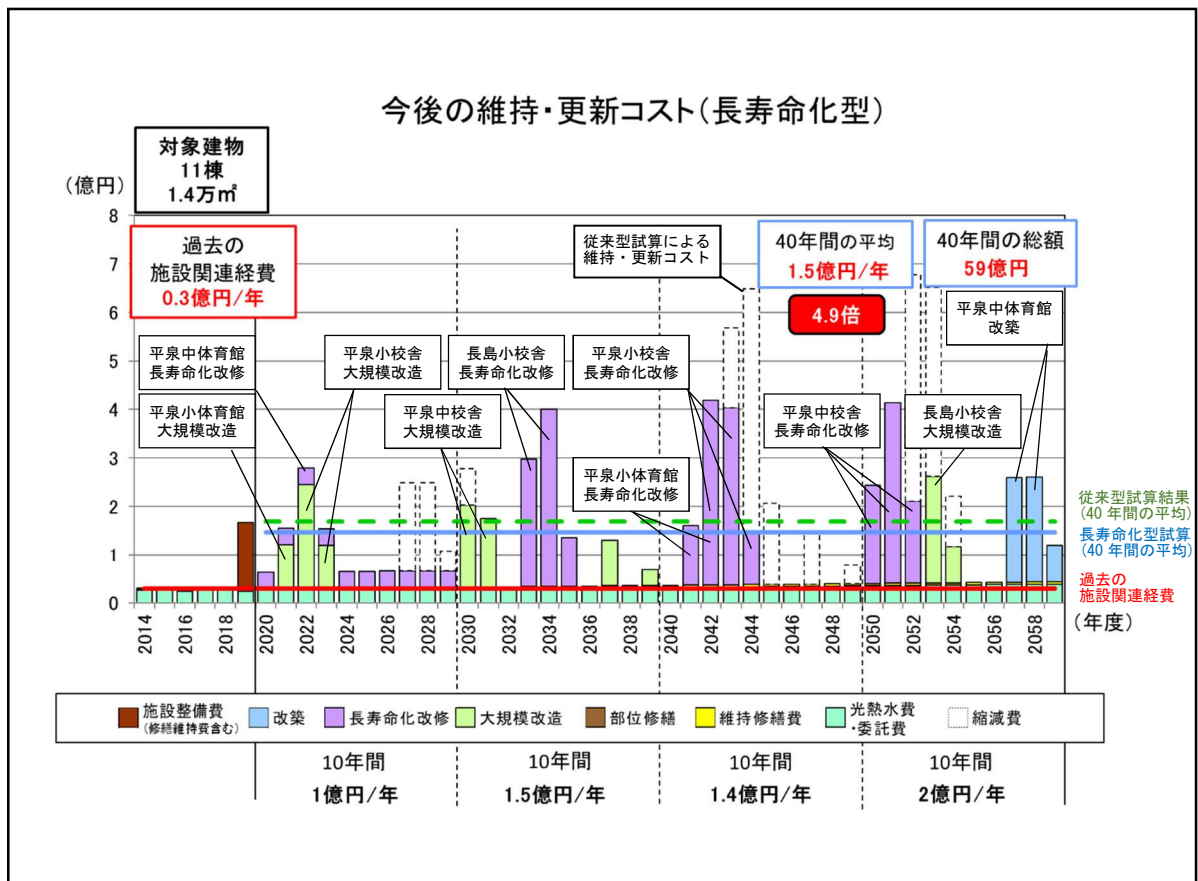
（ただし、改築・長寿命化改修・大規模改造を今後10年以内に実施する場合を除きます。）



図：改築までのイメージ（長寿命化型）

イ. 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

前述の考え方に基づき、長寿命化型の今後40年間の維持・更新コストを算出すると、59億円（1年あたり1.5億円）のコストが必要と試算されます。



【文部科学省】長寿命化計画策定に係る解説書付属 Excel ソフトによる計算結果

コスト試算条件(長寿命化型)

<グラフの年表示>
 基準年度 2019 西暦
 試算期間: 基準年の翌年度から40年間

改築
 <改築、要調査> 更新周期 50年
 <長寿命> ※1 更新周期 80年
 ※1 試算上の区分(改築、長寿命)ごとに更新周期を設定する。試算上の区分が未記入の場合は「改築」と同条件で算出する。
 工事期間 2年
 実施年数より古い建物の改築を 10年以内に実施

長寿命化改修
 <長寿命> 改修周期 40年
 工事期間 2年
 実施年数より古い建物の改修を 10年以内に実施

大規模改造
 改修周期 20年周期
 (ただし、改築、長寿命化改修の前後10年間に重なる場合は実施しない)

部位修繕 ※2
 ※2 躯体以外の劣化状況が未記入の場合は、部位修繕は算出されない。
 D評価: 今後 5年以内に部位修繕を実施
 C評価: 今後 10年以内に部位修繕を実施
 (ただし、改築・長寿命化改修・大規模改造を今後10年以内に実施する場合を除く)
 A評価: 今後 10年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く

5. 学校施設整備の基本的な方針

(1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針

総合管理計画によると、公共施設の管理に関する基本的な考え方は、次のように整理されています。

【公共施設等の管理に関する基本的な考え方】

人口減少および少子高齢化による公共施設に対する町民ニーズの変化

公 共 施 設 の 老 朽 化

公共施設の更新時期の集中およびその他施設やインフラ資産の更新

公 共 施 設 の 重 複 お よ び 分 散 配 置



【学校教育系施設の管理に関する基本的な方針】

現状や課題に関する基本認識

町内には、平泉小学校、長島小学校、平泉中学校が立地しており、延床面積では公共施設の約33%を占めています。

今後の少子化は、生徒数や学級数の減少によって学校の運営に影響すると想定されますが、学校は地区の中心としての役割を持つことから、その適切な維持、管理を行うことが求められます。

管理に関する基本的な考え方

学校は、児童・生徒が日常的に使用する施設であり、災害時にも重要な役割を持つため、適切な維持、管理を行います。

また、地区の中心的な施設であることから、行政サービス機能の確保やコミュニティの活性化につながるよう、余剰教室等を活用した機能の複合化についても検討します。

総合管理計画における公共施設の管理・運営に関する基本的な考え方を踏まえ、学校施設の長寿命化の基本的な方針を次のとおり定めます。

学校施設の長寿命化計画の基本方針

(1) 施設の長寿命化の推進

- ・適切な利用と維持管理を行い建物の長寿命化に努めます。また、施設の改築を行う場合には、実施時期の決定に合わせ、適正規模や適正配置を検討するほか、設計時に長寿命化に適する部材や機材の選定を実施します。
- ・防犯性の向上のほか、社会的要請に答え、児童・生徒の安全性や快適性などが質的に保たれた施設環境の整備を推進します。

(2) 中長期的な財政負担の平準化

- ・適切な保全と計画的な修繕を実施することで、突発的な修繕や機能障害を防ぎ、中長期的なコストの平準化を図ります。

(3) 地域活動に対応した施設の活用

- ・防災の拠点、生涯学習、文化、スポーツ、地域学校共同活動などの地域活動の中心として、学校施設の利活用を推進できるように、バリアフリー化などの対応も推進します。

(2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

当町の学校施設規模は小学校2校及び中学校1校であることから、今後の再配置等の実施にあたっては、今後の児童生徒数の推移や、地域活動での学校施設の利用等も勘案しながら方針を検討します。

(3) 長寿命化の方針

学校施設を目標使用年数まで使用するためには、適切な時期に改修を行う必要があります。

目標使用年度の中間にあたる建築後 40 年経過時に長寿命化改修を行うこととし、建物の安全性や機能回復を図るための大規模な改修については、長寿命化改修と改築の中間期である、建築後 20 年経過時と 60 年経過時に行うことが望ましいと考えます。

決定にあたっては、上記の方針と目標使用年数を踏まえ、専門家の意見や町の財政状況を確認しながら適切な時期に実施する計画を定めていきます。

(4) 目標使用年数、改修周期の設定

本町の対象施設における改修等の周期および目標使用年数は次のとおりに設定します。

【表：改修等の周期および目標耐用年数】

用途	目標使用年数	大規模改造周期	長寿命化改修周期
校舎	80 年	築 20 年/築 60 年	築 40 年
体育館/柔剣道場	80 年	築 20 年/築 60 年	築 40 年

6. 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

(1) 施設整備の水準等

本町の学校施設における施設整備や改修の水準は、今ある施設を長期間使うことを推進するため、大規模改造や竣工時の水準に回復するとともに、各部位の工事における費用対効果を考慮した最適な仕様を設定します。また、学校施設の改修を行う際には、下記の「安全面」、「機能面」、「環境面」の3つの視点に基き、施設改修を実施します。

①安全面

部材の経年劣化による外壁・窓などの落下や、鉄筋の腐食、コンクリートの劣化による構造体としての強度の低下、ガス・水道・電気の設備配管等の劣化などの危険が生じないように、安全の確保に配慮します。

②機能面

教育内容・方法の多様化に伴い、少人数指導やICTを活用した教育に適應できる設備を目指すとともに、障害者のある児童生徒も利用しやすいバリアフリー化への対応など、機能的な施設づくりに配慮します。

③環境面

壁や窓等の断熱化による冷暖房の効率化や、照明機器等の省エネルギー化による使用電力量の抑制、二酸化炭素排出量の削減など、エコ改修の推進により環境面に配慮します。

7. 長寿命化の実施計画

(1) 実施計画の考え方

実施計画の考え方は次のとおりです。

●改築や改修等の優先順位

A 部位修繕を最優先に検討します。

劣化状況評価「C」のある、平泉中学校柔剣道場及び屋内運動場について、今後10年以内に部位修繕の実施を検討します。

B 長寿命化改修や大規模改造の順位は、「築年数」と「健全度」を参考に検討します。

C 既に改修が計画されているものについては、その内容を整備計画に反映します。

●工事費の算定方法

改築時期：80年とします。

長寿命化改修周期：概ね改修周期（40年）に工事実施とし、2年に工事費を均等配分するものとします。ただし直前の大規模改造の時期が遅くなっている場合には、工事実施時期を調整することとします。

長寿命化改修単価：198,000円/㎡（改築単価の60%）とします。

大規模改造周期：改造周期（20年）とし20年目と40年目に、現状の延床面積で単年度に工事を実施するものとします。評価時点で20年以上経過している建物はおよそ30年位までに大規模改造を行うのとし、直前に優先的な部位修繕を行った場合、その後大規模改造の時期等を調整することとします。

大規模改造単価（校舎）：82,500円/㎡（改築単価の25%）とします。

大規模改造単価（屋内運動場他）：72,600円/㎡（改築単価の22%）とします。

●工事時期の調整

単年度に工事が多く重複する場合には、築年数を参考に工事実施時期の調整をします。また、実施予定年で次回の工事時期も調整することも検討します。

(2) 改築や修繕の優先順位

対象施設ごとの躯体以外の劣化状況を健全度順に並び替えた場合を次に示します。健全度が同点の場合は、築年数の順とします。なお、実施計画を検討するにあたっては、優先順位1の平泉中学校柔剣道場、優先順位2の平泉中学校屋内運動場について、両方とも同一校内の運動施設のため、関連して実施することも検討します。

A	概ね良好
B	局所、部分的に劣化が見られ、安全上、機能上、問題なし
C	随所、広範囲に劣化が見られ、安全上、機能上、低下の兆しが見られる
D	劣化の程度が大きく、安全上、機能上に問題があり、早急に対応する必要がある

■ : 築50年以上 □ : 築30年以上

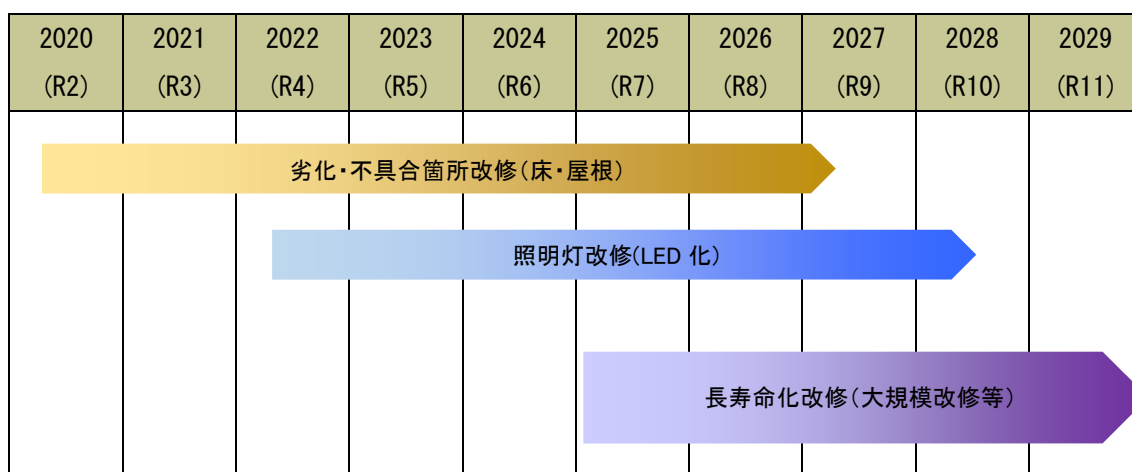
建物基本情報								躯体以外の劣化状況評価					
優先度 順位	施設名	建物名	構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築 年度	築年数	屋根・ 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点 満点)
1	平泉中学校	柔剣道場	S	1	460	1979 (S54)	40	C	B	C	C	C	50
2	平泉中学校	屋内運動場	S	2	1,318	1977 (S52)	42	A	B	C	C	C	55
3	長島小学校	校舎	RC	2	2,675	1993 (H5)	26	B	B	B	B	B	75
	長島小学校	屋内運動場	S	1	825	1994 (H6)	25	B	B	B	B	B	75
	長島小学校	連携施設	S	1	200	1994 (H6)	25	B	B	B	B	B	75
4	平泉小学校	屋内運動場	S	2	1,257	2001 (H13)	18	B	B	B	B	B	75
	平泉小学校	校舎	RC	2	2,606	2002 (H14)	17	B	B	B	B	B	75
	平泉小学校	校舎	RC	2	1,091	2003 (H15)	16	B	B	B	B	B	75
5	平泉中学校	校舎	RC	2	1,854	2010 (H22)	9	A	A	A	A	A	100
	平泉中学校	校舎	RC	2	206	2010 (H22)	9	A	A	A	A	A	100
	平泉中学校	校舎	RC	2	1,718	2011 (H23)	8	A	A	A	A	A	100

※1 現有施設を維持した場合に、劣化状況評価に応じて改修等を実施する場合の目安です。

(3) 長寿命化の実施計画とコストの見通し

上記の実施計画の考え方から計画した、1年目から10年目（2020（令和2）年度～2029（令和11）年度）の実施計画は下記のとおりです。

実施順として、床や屋根等の不具合や照明灯の交換など、劣化箇所や要交換箇所の改修を優先して実施し、その後に学校施設の長寿命化工事を施設ごとの優先順位を確認しながら進めていく計画とします。



本実施計画については、必要に応じ随時見直しを行っていきます。

(4) 長寿命化の効果

前述の文部科学省の長寿命化計画策定に係る解説書付属 Excel ソフトによる計算結果から、長寿命化改修を実施することにより、1.7 億円/年のコストを 1.5 億円/年へ縮減できるものと算出しました。これについては、今後の詳細計画の作成時に効果をさらに高められるように検討します。

--

(5) 維持・更新の課題と今後の方針

学校施設の維持・更新にあたっては、多大な費用を要する場合もあるので、他の公共施設の整備計画とも調整する必要があります。

このため、学校施設の改修や建替えが必要な時期を明確にした計画について、事前に財政部署と協議と情報の共有を行うことで、実施時期の調整を行って工事量を平準化し、町の突発的な財政支出を回避できるように調整します。

8. 長寿命化計画の継続的運用方針

(1) 情報基盤の整備と活用

定期的な施設の点検・評価を踏まえ、学校施設を継続的かつ効率的に更新する仕組みを検討します。特に、本計画のPDCAサイクルを着実に実行していくために、継続的な実態把握によるデータベースの蓄積と一元的な管理を行い、継続的な学校施設マネジメントを実行します。

(2) 推進体制等の整備

本計画を継続的に運用していくために、教育委員会を中心に庁内関係部署間で横断的に連携を図り、本計画を町全体の取り組みとして推進するため、推進体制の構築を図ります。

また、本計画を効率的に実施するためには、予算編成部署との連携が必要不可欠なことから、本計画により必要となる費用について、町全体の予算を踏まえ確保に努めます。

(3) フォローアップ

学校施設長寿命化計画について、定期的に計画の達成状況等を確認し、必要に応じフォローアップを実施します。

毎年の幼少人口の増減の推移に注視し、児童生徒数の変動が大きくなる場合には段階的な学校施設の保有量の拡大や縮小も視野にいたした検討を行います。

また、突発的な社会的要請に伴い、機能を向上させるための費用が必要になることも考慮するようにします。



【図：フォローアップ】

平泉町学校施設長寿命化計画

発 行 令和2年3月

作 成 平泉町教育委員会事務局